

森と木に関わる 生き方を めざす人へ



newsletter no.006

2011.11

岐阜県立 森林文化アカデミー

今回は卒業生特集！ 卒業生たちの活躍を通じて
森と木に関わるさまざまな生き方を紹介します。



夢の第一歩はアカデミーから

高橋理恵さん（和温スタジオ主宰）



アカデミーは開学11年目を迎え、卒業生の活躍が目立ちます。1期生の高橋理恵さんもその一人。彼女は最初の自力建設に携わり、課題研究では土壁の熱を蓄える性能に着目し研究を行いました。卒業後は関東に戻り、木と土壁にこだわる設計事務所に就職。ここでは、材料の段取りや、職人さんと直接やり取りをする直営マネージメントを叩き込まれ、住まい手や職人さんと密につながる家づくりを実践していたと聞きます。

就職して4年目、これまでの知識と経験を活かしながら、自分ならではのスタイルを模索し、2006年に鎌倉にて設計事務所とカフェを融合させた「和温スタジオ」を開業。地域に密着した設計事務所を主宰しています。ホッとできる空間をつくり、地域の方々との何気ない会話、落ち着いた空間と彼女の人柄から、自然に話が弾みます。時には、ちょっとした住まいの相談から、リフォームの依頼も生まれることも。アカデミーでの学びと、設計事務所時代の直営マネージメントのスキルを活かし、充実した仕事をこなします。

彼女からは「すべての始まりはアカデミー。そこから何かを見つけるのは自分」と、自信が伺えます。地域に根ざしたさらなる活躍に期待です。

和温スタジオ <http://www.waonwaon.com/>



自然学校からはじまる地域活性の立役者

大武圭介さん（ホールアース自然学校 神戸六甲分校 校長）

筑波大学大学院で農学の修士を取得後、第一期生としてアカデミーに飛び込み、環境教育や山村活性について学んだ大武さん。卒業後は静岡に本部がある自然学校の老舗、ホールアース自然学校に就職。本部運営の中核メンバーとして活躍し、なんと5年後には神戸市六甲山での分校開設を任せられ、エコツーリズム事業、環境教育事業を中心とした地域活性の取り組みを、自然学校を舞台に展開。その行動力と活躍ぶりは、自然学校界のニューリーダーとして、多くの関係者から注目されています。

そんな大武さん、在学中は、社会とつながったアカデミー独特の実践教育やプロジェクトに積極的に参加し「学び」を自らの手でつかみとっていたそうです。就職後、「現場力」を認められ活躍できたのも、そうした学びがあったからなのでしょう。今後とも、自然学校を中心とした地域活性のよきモデルとして、そしてアカデミーが誇る卒業生として、ますます活躍して欲しいものです。



森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



木造建築



ものづくり

森と木のエンジニア科



（森林・林業・木材利用）

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

より詳しい情報は、森林文化アカデミーHPへ。教員や学生がつづるブログは、学校の雰囲気がよく分かります。

森林文化アカデミー

検索



森への想いを「カタチ」にする

鈴木章さん（NPO法人 杉の杜学舎 代表理事）

杉とは「樹木を植えた山、木材を伐りだすことを生業とする人」。

杜とは、「神の降りる森のこと」。

森の持つ神聖さにもう一度目を向け、森で働く人の復権を目指したい、自然から学ぶ姿勢を忘れず自然と人間の共生のための拠り所になりたいとの想いを込め、鈴木章さんは在学中の2002年11月にNPO法人 杉の杜学舎（そまのもりがくしゃ）を美濃市で設立しました。

以来毎年、森林・林業を志す多くの学生のインターンシップも引き受けていただき、アカデミーの第二の「まなびや」ともなっています。現在、美濃市内の森林整備、林業講習会の開催を始め、片知川源流部を「水源の森」として地域の方々と間伐、作業道の開設（写真）など、森林資源を守る整備を美濃市、アカデミーとの官民学連携により取り組んでいます。



地域の伝統的なものづくりを継承する

鬼頭伸一さん（NPO法人 グリーンウッドワーク協会）

鬼頭伸一さんは56歳で会社を早期退職して、2009年に森林文化アカデミーに入学しました。里山保全のNPO活動に関わってきたので、今後は里山の身近な材を利用したものづくり活動をやりたいという希望でした。ちょうどこの地域で竹細工をする職人さんに後継者がなく、継承が課題だった時です。教員の勧めもあり、鬼頭さんは在学中に1年間かけて、この職人さんから農作業の籠や、長良川の鵜飼いに使う籠の作り方を学びました。鬼頭さんは元エンジニアで、この役割には適任でした。職人さんが経験で覚えてきた様々な籠の寸法を、細かく測って図面化していったのです。

いまま鬼頭さんは毎週森林文化アカデミーに通ってきます。アカデミーとの共同研究として竹細工継承に携わっており、自ら技術を高めながら若手メンバーの指導もしています。年齢の高い学生がスペシャリストを目指すのは容易ではありませんが、その年齢だからこそできる社会への関わり方もあります。森や木に関わる生き方をめざす人へのメッセージとして「やりたいことができるのならやれる内に、出来ればなるべく早く始める方が良いと思います。歳月人を待たず、です」と語る鬼頭さん、これからも大きな役割を担っていくことになりそうです。



地域で暮らす、山で働く

青木友明さん（東白川村森林組合）

「東濃ひのき」の主産地であり、環境に配慮した適切な森林管理と木材等の森林資源の有効利用を通じて地域社会に貢献し、FSC (Forest Stewardship Council) 森林認証もしている東白川村森林組合。青木さんはここで木を伐採・搬出する森林技術員として活躍中です。

林野庁・岐阜森林管理署が進めている社会貢献の森、「サントリー天然水の森 東白川村」で開催された森林作業道開設現地検討会においても、作業道づくりの先行伐採を行う研修会スタッフとして参加。愛用のチェーンソーを軽々と扱い、的確に作業道を作るための支障木を伐っていました（写真）。体も見違えるほどたくましく、すごく格好いい「山の男」になったなぁと感じました。



facebookはじめました！

今や情報インフラとし広く認知され、利用者が広がっているフェイスブック。森林文化アカデミーでも、オリジナルのページを開設しました。教員や学生による、日々の授業や学生生活の報告ほか、イベントカレンダーなどもあります。ぜひサイトを訪問して、「いいね！」を押してください。

www.facebook.com/forest.academy （「森林文化アカデミー facebook」で検索）

入試日程

日程等に変更する場合があります。
最新情報はホームページでご確認ください。

森と木のクリエイター科

2012年1月29日(日)、3月11日(日)

森と木のエンジニア科

一般入試 2011年11月19日(土)、2012年1月28日(土)

お問い合わせ

501-3714 岐阜県美濃市曾代88

岐阜県立森林文化アカデミー

tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529

email info@forest.ac.jp